PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number:

04-303392

(43)Date of publication of application: 27.10.1992

(51)Int.CI.

B66F 9/22 B66F 9/24 F15B 11/00

(21)Application number: 03-068521

(71)Applicant: MITSUBISHI HEAVY IND LTD

M H I SAGAMI HIGHTECH KK

(22)Date of filing:

01.04.1991

(72)Inventor: AOKI KANJI

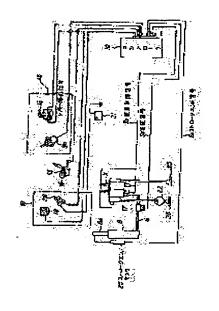
UCHIYAMA YUKIO

MIDORIKAWA TOSHIYUKI

(54) CONTROL DEVICE FOR INDUSTRIAL VEHICLE

(57)Abstract:

PURPOSE: To reduce a shock when a piston rod of a working machine cylinder comes to its stroke end. CONSTITUTION: A controller outputs a flow control signal S1 in accordance with a lever manipulation signal S1 which is issued when a working machine lever 9b tilts, and accordingly, pressure oil is fed from a solenoid proportional control valve 11 to a tilt cylinder 8 so that a fork tilts. When the piston rod 8a of the tilt cylinder 8 approaches its stroke end, a stroke end sensor 25 outputs a stroke end signal S4 to a controller 10 which therefore gradually reduces the value of the flow control signal S1, thereby the moving speed of the piston rod 8 is gradually decreased.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]
[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (JP)

(51) Int.Cl.5

(12) 公開特許公報(A)

庁内整理番号

(11)特許出顧公開番号

特開平4-303392

(43)公開日 平成4年(1992)10月27日

技術表示箇所

最終頁に続く

B66F 9/22 9/24 F15B 11/00	E 7637-3F C 7637-3F	
		審査献求 未献求 請求項の数1(全 8 頁)
(21)出願番号	特 頤平3-68521	(71)出顧人 000006208 三菱重工業株式会社
(22) 出願日	平成3年(1991)4月1日	東京都千代田区丸の内二丁目5番1号 (71)出願人 000103035 エム・エイチ・アイさがみハイテツク株式 会社 神奈川県相模原市田名3000番地
		(72)発明者 脊木 完治 神奈川県相模原市田名3000番地 三菱重工 築株式会社相模原製作所内
		(74)代理人 弁理士 光石 英俊 (外1名)

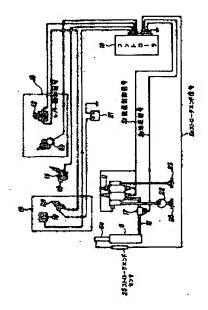
(54)【発明の名称】 産業車両の制御装置

(57)【要約】

【目的】 作業機シリンダのピストンロッドがストロークエンドに達しても、ショックを小さくする。

識別記号

【構成】 作業機レパー9 bの傾動により生じたレパー操作信号S1 に応じて、コントローラ10から流量制御信号S2 が出力され、電磁比例制御弁11からチルトシリンダ8へ圧油が給排され、フォークが傾動する。チルトシリンダ8のピストンロッド8 aがストロークエンドに近づくと、ストロークエンドセンサ25からストロークエンド信号S4 が出力され、コントローラ10は流量制御信号S2 の値を漸減させ、ピストンロッド8 aの移動速度を漸減させる。



特開平4-303392

(2)

【特許請求の範囲】

【請求項1】 傾き角に応じた値のレバー操作信号を出 力する作業機レバーと、レバー操作信号の値に応じた値 の流量制御信号を出力するコントローラと、流量制御信 号の値に応じた量の圧油を給排する電磁比例制御弁と、 電磁比例制御弁により圧油が給排されて伸縮する作業機 シリンダと、を有する産業車両において、前配作業機シ リンダのピストンロッドがストロークエンドに近づいた ことを検出するストロークエンドセンサを備え、前配コ ントローラは、前紀ピストンロッドがストロークエンド 10 ることができる。 に近づいたことを前記ストロークエンドセンサが検出し たら、流量制御信号の値を漸減させることを特徴とする 産業車両の制御装置。

【発明の詳細な説明】

[0001]

【産業上の利用分野】本発明は、電磁油圧式で荷役作業 を操作できる産業車両の制御装置に関し、作業機シリン ダのピストンロッドがストロークエンドに達してもショ ックを小さくするようにしたものである。

[0002]

【従来の技術】従来、電磁油圧式に操作できるフォーク リフトの制御装置としては、例えば図6に示すものが知 られている(実開昭60-107405公報)。同図に 示すように油圧ポンプ01からの圧油は、電磁比例制御 弁02と、管路07を介してパワーステアリング用の制 御弁(図示省略)とに分流されている。電磁比例制御弁 02には、パイロット操作用の油室02aが形成され、 この油室02aにはパイロットピストン02bが摺動自 在に嵌合されている。このパイロットピストン02b は、油路を切り換えるスプール02cと連結している。 パイロットピストン02b及びスプール02cはそれぞ れスプリング03a,03bに連結し、油圧のない状態 で中立位置に保持されている。パイロットピストン02 hの両側には、パイロット流入管路02d、02eがそ れぞれ設けられている。パイロット流入管路02d、0 2 e は、電磁開閉弁02f,02gを介してパワーステ アリング用の油圧系と接続している。従って、電磁開閉 弁02f、02gを開閉することにより、パイロットピ ストン02b及びスプール02cが図中左右に移動す る。スプール02cが移動すると、このスプール02c を介して作業機シリンダ04に圧油が給排され、作業機 シリンダ04が伸縮する。スプール02cの移動位置に より、作業機シリンダ04に給排される圧油の流量が調 整され、その昇降速度が調整される。作業機シリンダ0 4としては、フォーク(図示省略)を昇降させるもの、 傾斜させるもの等の各種のものが使用できる。

【0003】一方、電磁開閉弁02f, 02gはコント ローラ05からの流量制御信号により、期間が制御され る。コントローラ05は、作業機レパー06からのレパ 一操作信号により流量制御信号を出力する。作業機レパ 50 っている。この時、アウターマスト2は車体7の前方で

-06は、ポテンショメータを備えており、傾き角度及 び傾き方向に応じたレバー操作信号を出力する。作業機 レパー06は、中立位置では出力を出さない。従って、 作業機レバー06を操作することで、電磁開閉弁02 f. 02gを開閉して電磁比例制御弁02から作業機シ リンダ04に圧油が給排され、作業機シリンダ04が伸 縮してフォークの昇降、傾斜等が行われると共に作業機 レパー06の傾き角度を調整すると、作業機シリンダ0 4への圧油の流量が調整され昇降速度等を自在に制御す

[0004]

【発明が解決しようとする課題】ところで、作業機レバ 一06を大きく傾けて作業機シリンダ04のピストンロ ッドを高速に移動させた際に、ピストンロッドがストロ ークエンドに達すると、大きなショックが発生する。こ のショックにより、機械部品の寿命が低下したり、最悪 の場合にはフォークリフトが転倒したり荷物落下が生じ ることがある。

【0005】本発明は、上記従来技術に鑑み、作業機シ リンダのピストンロッドがストロークエンドに達して も、ショックの生じない産業車両の制御装置を提供する ことを目的とする。

[0006]

【課題を解決するための手段】上記課題を解決する本発 明の構成は傾き角に応じた値のレバー操作信号を出力す る作業機レパーと、レバー操作信号の値に応じた値の流 量制御信号を出力するコントローラと、流量制御信号の 値に応じた量の圧油を給排する電磁比例制御弁と、電磁 比例制御弁により圧油が給排されて伸縮する作業機シリ ンダと、を有する産業車両において、前配作業機シリン ダのピストンロッドがストロークエンドに近づいたこと を検出とするストロークエンドセンサを備え、前配コン トローラは、前記ピストンロッドがストロークエンドに 近づいたことを前記ストロークエンドセンサが検出した ら、流量制御信号の値を漸減させることを特徴とする。

[0007]

【作用】作業機シリンダのピストンロッドがストローク エンドに近づくと、このことがセンサで検出され、流量 制御信号の値が漸減してピストンロッドの移動速度が減 40 じて止まる。

[0008]

【実施例】以下、本発明について、図面に示す実施例を 参照して詳細に説明する。 図1~図5に本発明の一実施 例を示す。図3は、実施例に適用するフォークリフトの 一例を示す斜視図であり、本実施例では、チルトシリン ダ8に本発明を適用する。同図に示すようにリフトシリ ンダ1は左右一対のアウターマスト2に固定され、ピス トンロッド1aの伸縮に伴いアウターマスト2をガイド として左右一対のインナーマスト3を昇降するようにな (3)

特開平4-303392

車体7に固定してある。この結果、インナーマスト3の 昇降に伴いチェーンに懸架してあるブラケット5及び直 接荷物を積載するフォーク4からなる昇降部が昇降す る。チルトシリンダ8は、アウターマスト2及びインナーマスト3と共に昇降部を前方(反車体7個)及び後方 (車体7個)に傾動する為のものである。即ち、荷降ろしの場合には前方に傾動すると共に荷上げの場合及び荷 物の運搬時には後方に傾動し、夫々の作業性を良好に保 つとともに安全性も確保するようになっている。このチルトシリンダ8にはストロークエンドセンサ25(図 10 1,図3参照)が備えられている。

【0009】作業機レバー9a,90は、これらをオペレータが操作することにより、コントローラ10及び電磁比例制御弁11を介してリフトシリンダ1及びチルトシリンダ8の動作を制御するものであり、緊急停止を行う為の安全スイッチ12とともにジョイスティックポックス13に収納してある。作業機レバー9c,9d,9eは各種のアタッチメント、例えば、ロールクランブ、ペールクランブ等を取り付けた場合に対処するものである。シートスイッチ14は運転席15にオペレータが座った時に動作するスイッチで、その出力信号はコントローラ10に出力する。

【0010】図1は上記フォークリフトの制御装置の一 例を示すプロックである。同図に示すように、作業機レ パー9bはポテンショメータで形成されており、電流値 が操作量に比例するレパー操作信号Si をコントローラ 10に送出する。コントローラ10は、レパー操作信号 S1 に基づき電磁比例制御弁11のスプールの開度を調 整する流量制御信号S:を送出する。電磁比例制御弁1 1 は流量制御信号S。の大きさに比例してスプールを移 動させて、油圧管路16を流れる圧油の流量を制御して チルトシリンダ8の動作速度を作業機レパー96の操作 量に対応するように制御する。またチルトシリンダ8に は、チルトシリンダ8のピストンロッド8aがストロー クエンドに近づいたことを検出するストロークエンドセ ンサ25が備えられている。ピストンロッド8aがスト ロークエンドに近づくと、ストロークエンドセンサ25 からコントローラ10ヘストロークエンド信号S4 が送 出される。

【0011】油圧センサ17は油圧管路16に配設して 40 あり、この油圧管路16の油圧を表す油圧信号S2 を送出する。コントローラ10は油圧信号S3 を処理してリフトシリンダ1に作用する負荷荷重を演算する。更に、コントローラ10は、警告灯18とともにコンソールボックス19に収めてあるスタータスイッチ20の投入により、パッテリ21から電力を供給されて動作すると共に、安全スイッチ12を操作したとき及びシートスイッチ14が動作せず離席状態のときには流量制御信号S2の電流値を零として電磁比例制御弁11の開度が零となるように制御する。 50

[0012] ここでコントローラ10を中心として行う、ショックレス停止制御について図1.図2を基に説明する。図2において、コントローラ10のCPU120は、クロック発生部121のクロックに同期して各種の演算処理をするものであり、メモリ122に記憶したソフトウエアを用いて演算処理する。一方、作業機レバー9bから出力されるレバー操作信号S。及びストロークエンドセンサ25から出力されるストロークエンド信号S。は、A/Dコンパータ123によりデジタル信号に変換されてからCPU120へ送られる。流量制御信号S。は、CPU120の制御に基づき、電磁弁駆動回路125から電磁比例制御弁11へ送られる。なお、124は電源回路である。

[0013]作業機レバー9bを倒しレバー操作信号S:を出力すると、コントローラ10からは、レバー操作信号S:の値(これはレバー9bの傾き角に対応している)に比例した値の流量制御信号S:が出力され、チルトシリンダ8が作動しフォーク4が傾動する。つまり図4に示すように、レバー9bの開度が大きいときには特性αで示すように信号S:の値が大きくなり、レバー9bの開度が小さいときには特性βで示すように信号S:の値は小さくなる。

【0014】作業機レパー9bを倒したままにしておくと、チルトシリンダ8のピストンロッド8aがストロークエンドに近づき、ストロークエンドセンサ25からストロークエンド信号S。が出力される。ストロークエンド信号S。が出力される。ストロークエンド信号S。が出力されると、作業機レパー9bの傾き角が同じでレパー操作信号S。の値が一定のままであっても、図4のショックレス制御領域に示すように、コントローラ10は流量制御信号S。の値を漸減させていく。したがってピストンロッド8aの移動送度はストロークエンドに近づくにつれ徐々に下がり、ピストンロッド8aがストロークエンドに達しても、ショックは小さくてすむ。

[0015] 次に図5を基にショックレス停止制御の手順について説明する。なお、各動作ステップには符号「ST」を付す。制御をスタートレイニシァライズをした(ST1, ST2)後に、作業機レパー9 bの投入状態を判定する(ST3)。レパー9 bがチルト後傾になっているときにはチルト後傾制御をする流量制御倡号S。を出力し(ST4)、中立になっているときには流量制御倡号S。の値をゼロにする(ST5)。

[0016]ショックレス制御中でなく(ST6)、ショックレス制御領域内でもなく(ST7)、更にショックレス制御領域に入っていない(ST8)ときには、レバー操作信号S1の値に応じた値の流量制御信号S2を出力する。

【0017】ステップ (ST8) でショックレス制御領域に入ったと判定したら、ショックレス制御フラグをセットし、レバー操作信号S、の値に応じた流量制御信号

(4)

特開平4-303392

【図1】本発明の実施例を示すプロック図である。

【図2】本発明の実施例を示すブロック図である。

【図3】本発明を適用したフォークリフトを示す斜視図 である。

【図4】シリンダストロークと流量制御信号S2 との関 係を示す特性図である。

【図5】本発明の動作を示すフローチャート図である。

【図6】 電磁油圧式のフォークリフトの従来の制御装置 を示す油圧回路である。

【符号の説明】 たときがショックレス制御領域内であるときには、出力 10

1 リフトシリンダ

1a ピストンロッド

4 フォーク

9 b 作業機レバー

10 コントローラ

11 電磁比例制御弁

16 油圧管路

17 油圧センサ

24 自動下降スイッチ

120 CPU

S1 レバー操作信号

S: 流量制御信号

S: 油圧信号

ストロークエンド信号

S1の値を最終値とする。 【0019】上記実施例ではチルトシリンダ8について

ショックレス制御をするようにしているが、同様な構成 を用いてリフトシリンダ1についてショックレス制御を することもできる。また本発明はフォークリフトのみな らず、ショベルローダなど他の産業車両のシリンダにも 適用することができる。

S: の値を、前回値としてメモリする (ST10). ス

テップ (ST6) でショックレス制御中であると判定し

たときには、前回値から減速値を引いた値を、今回の信 号S2 の値とする (ST11)。 制御サイクル毎にステ

ップ(ST11)の演算を繰り返し、出力Szの出力値

が最終値(図4参照)よりも小さくなったら(ST1

2)、ショックレス制御フラグをクリアして出力S₂の

【0018】ステップ (ST7) でレパー9 bを投入し

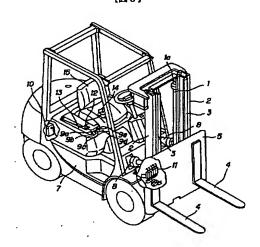
[0020]

値を最終値とする。

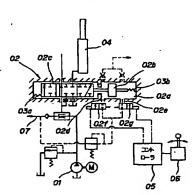
【発明の効果】以上実施例とともに具体的に説明したよ うに本発明によれば、作業機シリンダのピストンロッド 20 25 ストロークエンドセンサ がストロークエンドに近づいたら、ピストンロッドの移 動速度を減速させるようにしたので、ピストンロッドが ストロークエンドに達してもショックが小さくなる。よ って機械の損傷防止ができ、また、安全な作業が確保で

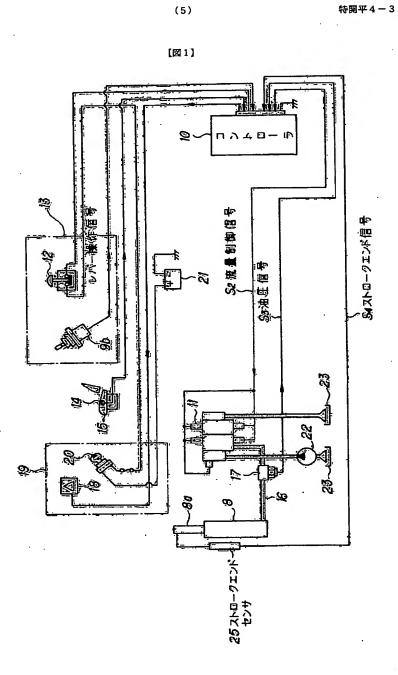
【図面の簡単な説明】





[図6]

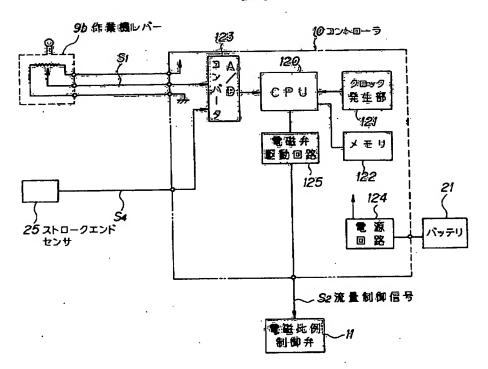




(6)

特開平4-303392

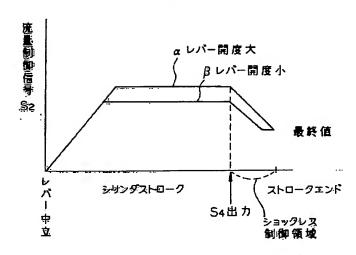
【図2】



(7)

特開平4-303392

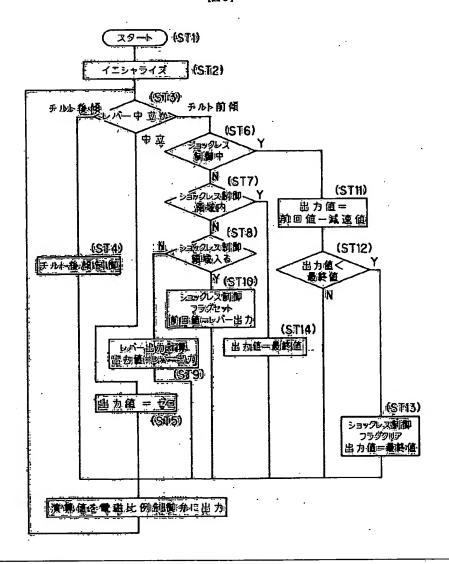
[図4]



(8)

特開平4-303392

【図5】



フロントページの続き

(72)発明者 内山 幸夫

神奈川県相模原市田名3000番地 三菱重工 業株式会社相模原製作所内 (72)発明者 緑川 利幸

神奈川県相模原市田名3000番地 エム・エ イチ・アイさがみハイテック株式会社内

This Page is inserted by IFW Indexing and Scanning Operations and is not part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

X	BLACK BORDERS
×	IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
X	FADED TEXT OR DRAWING
	BLURED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
	SKEWED/SLANTED IMAGES
×	COLORED OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
	GRAY SCALE DOCUMENTS
	LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
	REPERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
	OTHER:

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.
As rescanning documents will not correct images problems checked, please do not report the problems to the IFW Image Problem Mailbox